

矢守委員からのご意見

令和7年12月26日(金)
高知県地震被害想定検討委員会

矢守委員からのご意見

【資料1】L1地震動、津波浸水予測の検討結果について

今後被害想定を公表していくなかで、現在県のホームページに設定されているように、L1とL2を見比べられるようなかたちが望まれる。

【資料2】L1地震による液状化及び土砂災害の検討結果について

- ✓ L1とL2とでは、どの点が大きく異なるのかについて、地震の揺れや液状化、津波の高さなどの項目別に、一般向けのコミュニケーションとして整理、発信するとよい。たとえば、液状化がL1でもかなりの規模で起こることを皆さんは認識していないと思う。
- ✓ 生活の視点で見た時、液状化（避難路の使用不可など）や土砂災害（道路の途絶による集落等の孤立など）が何に影響してくるのかを示すことが必要である。

【資料3】L2の半割れ（時間差）の検討方針について

- ✓ 高知県では、西側先行の場合は全割れとシナリオは大きくは変わらない。東側先行は臨時情報が出る典型的なシナリオとなる。
- ✓ 半割れ（巨大災害警戒発表時）は、2024年8月に臨時情報が発表されたときはまったく違う、これまでに経験したことのないような状態になる。高知県内でどのようなことが起こるのか予測を行っておくことは非常に大事である。

【資料4】被害想定 of 検討状況について

- ✓ 耐震改修促進計画の耐震化率や基準とする統計データと被害想定で収集した課税データに課題があることは把握した。建物の状況は重要な情報なので、今後、推移を追えるように、同じ条件でデータを集計する方法などを考えていくことが望ましい。

【資料5】被災シナリオの作成及び被害様相の作成方針について

- ✓ 人物を特定しないシナリオや対策を書き出すのはごく一般的な内容になってしまう。自分に当てはまらない属性であっても、家族や友人、過去や将来の自分を想像して活用してもらえるように、シナリオの見方や使い方、対策などを示すなどの工夫で、感情移入しながら読んでもらえるようにするのが良い。そのために、シナリオをどのように見ていただくのかといった前説を作って頂くのは非常に良い。登場人物を見ていただくときのインストラクションの書き方で、自身と同じないし類似の人物でなくても自己投影をしやすくすることもできる。
- ✓ 被害想定結果はシナリオ以上に県民は読んでくれない。シナリオの要所に被害想定結果とリンクする部分を作っておき、その部分から被害想定結果に「飛ぶ」仕組みを作り、対策に結び付けられると良い。
- ✓ 具体的な登場人物を設定したシナリオなど、他の県ではあまり見られないような工夫がされているため、良いものになるのではないかな。
- ✓ 県の状況を踏まえて、シナリオの登場人物に建設業を加えたことは良い変更である。